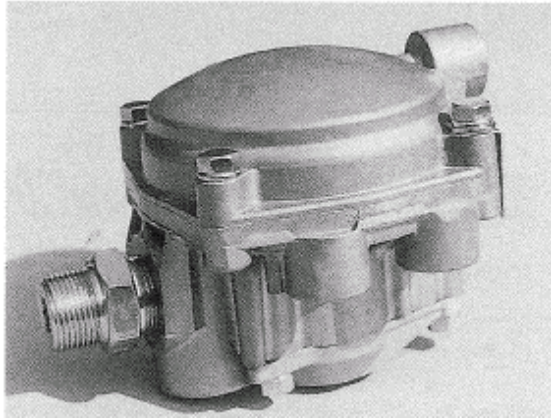


NO. 3	発行日 2005年8月	改定日 2017年3月
リレー・エマージェンシ・バルブRE-6Eの点検、保守、整備について		

1. リレー・エマージェンシ・バルブRE-6Eの仕様と構成部品

外観写真



ネジ込みタイプ

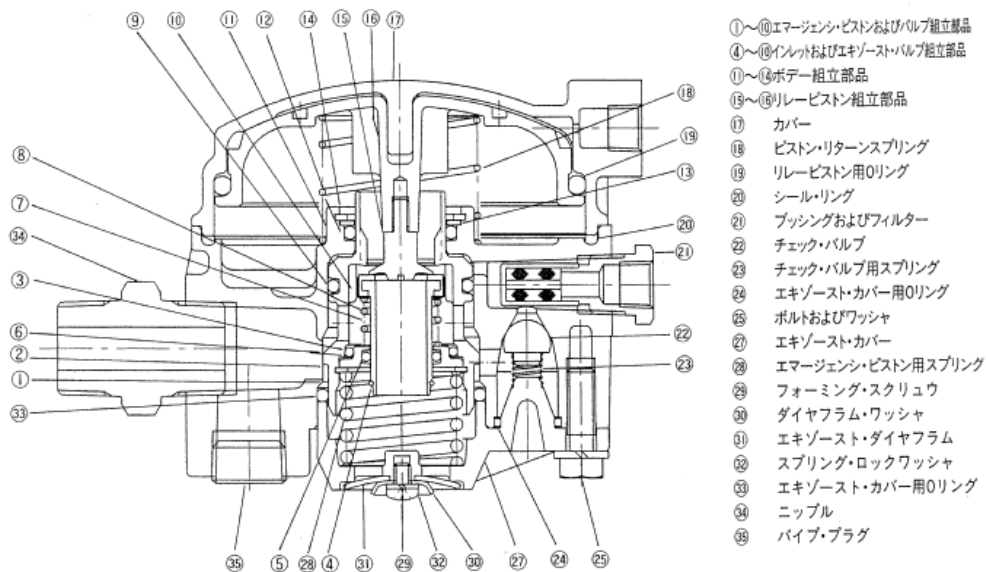


フランジタイプ

仕 様

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 最高使用圧力 | : 880kPa (9kgf/cm ²) |
| 2. 使用温度範囲 | : -20℃～+70℃ |
| 3. 非常ブレーキ作動圧力 | : 250±30kPa (2.55±0.31kgf/cm ²) |
| 4. 非常ブレーキ解放圧力 | : 460kPa 以下 (4.7kgf/cm ² 以下) |
| 5. 常用ブレーキ解放不能圧力 | : 380kPa 以下 (3.9kgf/cm ² 以下) |
| 6. 重量 | : 約 1.4kg |

構成部品 (ネジ込みタイプの例)



キット構成内容

1. リペアキット構成部品 : ③、⑤、⑦、⑨、⑫、⑰、⑳、㉒、㉓、㉔、㉚、㉜
2. スプリングキット構成部品 : ②、④、⑧、⑮、㉑、㉗

2. 日常点検要領

運行前にトラクタと連結し、ジャンパ・ホースを接続して非常ブレーキ解除（460kPa(4.7kgf/cm²)以上）の状態において、次のことを確認してください。

- 1) ブレーキ・ペダルを踏んだとき、ブレーキ・チャンバが迅速に作動するか。
- 2) ブレーキ・ペダルを離したとき、ブレーキ・チャンバが迅速に解除するか。
- 3) サプライ・ラインの連結を外したとき、ブレーキ・チャンバが迅速に作動し再び連結したときに解除するか。
- 4) ブレーキ・ペダルを踏み込んで放したとき、リレー・エマージェンシ・バルブからの排気音が正常であるか。
- 5) リレー・エマージェンシ・バルブのエグゾースト・ポート及び配管接続部からのエア漏れはないか。

3. 保守・整備要領

1年もしくは、10万km走行以内の何れか早い時期に、整備工場に依頼しリレー・エマージェンシ・バルブを分解して次のことを行なってください。なお、あらかじめリペアキットを用意しておくとう便利です。

- 1) 分解する際は、各Oリングの摺動面やバルブのシール面を傷つけないように注意して行って下さい。
- 2) ピストン、バルブなどの各摺動部の摩耗、損傷ならびに各スプリングの亀裂、損傷、へたりなどの異状の有無を点検して摩耗の著しいものや、損傷している場合は交換してください。
- 3) Oリングやバルブなどのゴム部品類は全て交換ください。
- 4) リレーピストン部の水分除去と清掃を行ってください。(サービスニュースNO. 26参照)
- 5) ブッシング及びフィルターを外し清掃または交換してください。
- 6) 組立する際は、各Oリングや摺動面にリチウムベースグリースを塗布してください。また規定のトルクで締付けを行ってください。

4. 使用上の注意事項

- 1) トレーラレザータンクのエア圧力が460kPa(4.7kgf/cm²)以下の場合では、非常ブレーキが完全にゆるめられていない状態となるので、そのまま発進走行すると引きずりを起こし、ブレーキ・ドラムを傷めたり、ライニングの早期摩耗の要因となります。
なお、非常ブレーキを完全にゆるめるには、ブレーキのエア圧力を460kPa(4.7kgf/cm²)以上にしてください。
- 2) サプライ・ラインのエア圧力が380kPa以下(3.9kgf/cm²以下)にある状態でブレーキ作動を行うと、ブレーキバルブを排気しても、エア・チャンバ内に圧力が残存しているので引ずりの要因となります。
- 3) 冬期寒冷地においてブレーキエア内に水分が含まれていると、凍結して作動不良を起こす要因となりますので、エア・タンクの水分除去を充分に行なってください。なお、トラクタ側に装着されているエア・ドライヤーは、トラクタの取扱い説明書などに従って定期的に点検・整備を行なってください。